

#編集後記 いのちの理由

3月は東北の震災から10年の節目ということもあって、テレビの震災関係の特集をよく目にしました。

そのなかの番組で耳にした、さだまさしさんの「いのちの理由」という歌。

多くの大切な「いのち」が失われた震災への思いが重なって、その歌詞に心を打たれました。

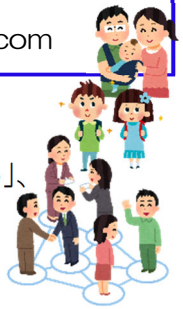
「私が生まれてきた訳は 父と母とに出会うため」と始まる歌詞。「きょうだいたちに出会うため」、「友達みんなに出会うため」、「愛しいあなたに出会うため」と続きます。*



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



4月は、入園式、入学式、入社式など、新しい「出会い」のシーズン。

「袖振り合うも他生(多生)の縁」という諺がありますが、恥ずかしながら僕はずっと「多少」だと思い込んでいました。(→<)「他の生」とは、前世や来世のこと。現世では袖が触れた程度の縁でも、そうなるのは前世の、あるいは来世に続く因縁による、という意味だそうです。同じ学校、同じ職場にいること等、すべてが因縁と考えれば、どんな縁も大切に育みたいという気持ちが芽生えるのではないのでしょうか。その思いはきっと相手にも伝わり、良い「出会い」を育てていくことになるように思います。新しい世界に踏み込むのは、楽しみも不安もあるでしょうが、素敵な出会いをしてほしいものですね。



2021年2月22日、厚生労働省は2020年の「人口動態統計速報」を公表しました。

出生数は、前年比2万5,917人減の87万2,683人で過去最低(1970年代の出生数は年間200万人を超えてきました)。一方、新型コロナで亡くなられた方もあったにもかかわらず、死亡数は前年比9,373人減の138万4,544人。すなわち出生数から死亡数を引いた「自然増減数」は-51万1,861人となります。

例に出して恐縮ですが、令和2年の鳥取県の人口が約55万人なので、昨年の1年間だけでおおよそ鳥取県まるごと1県分の「人」が減ったということになるのです。さらに新型コロナの影響もあり、2020年の婚姻件数は前年と比べ12.7%減。人口減少にいつその拍車がかかることが懸念されています。



人が減っていくということは、単純にいうと「出会い」の絶対数が減っていくということです。

これから人を受け入れる側の方に考えてほしいのは、価値観が違つとか、ゆとりだからとかいう理由で、せっかくの縁で会社に入ってきた人を簡単に見限ってほしくないということ。絶対数が少なくなっていくのですから、理想的な新人が入社してくれるということはますます難しくなるでしょう。自分達が育成するのだという、今まで以上の意識が必要ではないでしょうか。受け入れる側も、限りある「出会い」を大切に、目的や思いを共有するところから、どうか根気よく指導してあげてほしいと思います。



思い起こせば、社会に出ようとしていた頃の僕は、ホント、ダメな人間だったと思います。(+_+)

大学の成績も酷く4年になっても卒業できるかあやしい状況。でもとりあえず就職活動はしなくては、とたまたま友達が入社試験を受けるという会社をどんな会社かもよく知らないのに入社面接を受けたらなぜか僕だけ内定。リクルートスーツは別の友達からの借り物でした。(彼は今でも僕の親友です(-ω-)/)

卒業することに自信がなかったのでそこで就職活動は終了。なんとか卒業できたものの、会社に入社したらしてしばらく落ちこぼれ。10年ほど前、僕がその会社を退職し独立した時に昔の先輩に挨拶に行ったら、「同期で真っ先に辞めると思ってたのにな」と言われました。2人してあっはっはー、です。(▽▽;)

そんな僕が二十数年もサラリーマンを務めてこられたのは、新人の時の先輩や上司のおかげでした。

それに、お客様や同僚たち。僕は出会いに恵まれ、出会いに育てられたのだと、改めて感謝しています。



少し前になりますが、コロナ禍の中、大変お世話になった方の訃報にショックを受けました。

それは、僕が社労士になって初めてご契約をいただいた会社の社長でした。

サラリーマンをやめてこれからやっていけるのか、不安いっぱいの中、その社長は僕にいつも笑顔で温かい言葉をかけてくれ、また社労士としての実務経験のなかった僕を、逆に導いてくれました。

その方との出会いがあったおかげで、社労士として何とかやっていけている今の自分があります。

これまで出会った方に僕が救われてきたように、微力ながら僕も誰かの一助になることができれば。

それが50歳をとうに過ぎた僕の、これからの「いのちの理由」になるのかもしれない。

